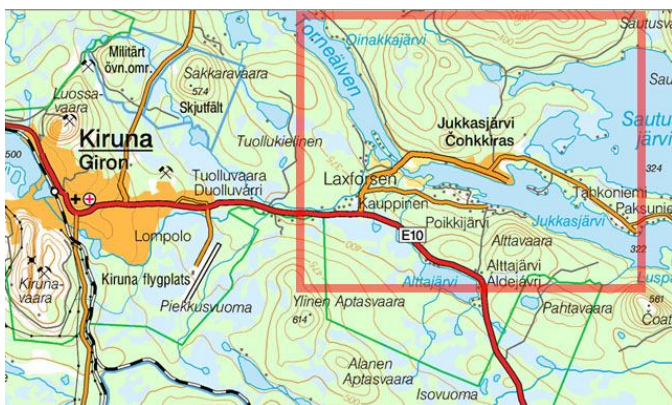


## 北極圏旅行記 2017-2018 冬 (15)

～12/31 ユッカスヤルビ教会～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ユッカスヤルビ (Jukkasjärvi) はスウェーデン北部の小さな村の名称だ。"järvi"は湖という意味で、湖の名称がそのまま村の名称になっている。このあたりの地名は、山・川・湖の名称がそのまま地名になったものが多い。アイヌ語の地名と同じだ。



上図は、ユッカスヤルビの位置である。スウェーデンの北極圏最北の都市キルナ (Kiruna) から東に少し行ったところにある。こんな極北の地に都市があるのは、巨大な鉄鉱石の鉱山があるからだ。キルナの周囲には、鉱山の記号がいくつも見られる。キルナにはスウェーデン最北の空港 (稀に成田から直行便も飛ぶ) があり、ユッカスヤルビまでの、路線バスもある。



上図の口部分の拡大である。湖と村の名称が同じとわかる。湖自体は、トーネ川の一部であることもわかる。黄色い太い道の右端には、ユッカス教会がある。



(P2に拡大写真)

午前11時頃に、目的地のユッカス湖に着いた。昼なのに、黎明の風景を呈している。完全に結氷して、その氷の上に雪が積もっている。雪面にはいくつもスノーモービルの跡がある。たぶん、スキーを着けた軽飛行機なら離発着可能だろう。この湖の分厚い氷で、毎年「アイスホテル」の本館が建造されるのだ。



道の終点がロータリーになっていて。そこに教会の塔があった。キルナ市内からの路線バスが一台、それに乗用車が数台停まっている。私はこれが教会の母屋と思っていたが、塔をくぐると美しい教会があった。



「ユッカスヤルビ教会」 C.Tanaka (P2に拡大画像)



